

組織目標評価報告書（平成28年度）

部局名：

医学部保健学科

部局長名：

竹田 芳弘

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	
<p>・教育の実施体制については、教員の退職、転任などにより教員数が減る中、教員の確保、教育の充実に努める。学士力の向上と教育の効率化を図るため、専攻、領域の壁を取りのぞいた教育体制を作る。各専攻の病院実習は岡山大学病院の看護研究・教育センター、看護部、医療技術部放射線部門・検査部門と連携し、看護師、診療放射線技師、臨床検査技師を臨床教授、臨床准教授、臨床講師に委嘱し、教育を行う。この中から次世代の教育を担う教員の育成を進める。</p> <p>・60分授業、4学期制に向けて行ったカリキュラム改正の際に導入するタグ機能付き映像アノテーションシステムによる授業の構築およびタグ情報によるシミュレーション演習・実験の双方向(教員・学生)的評価の充実に図る。</p> <p>・60分授業、4学期制により可能となる留学や国内外研修を推進し、学生が行った内容結果については講義科目として評価、認証する。</p> <p>・学習達成度の評価に用いているWeb based testing (WBT)、CBTを更に発展させ、臨床実習前の要件としての基礎専門知識の到達レベルの評価に用いる。さらに国家試験レベルのWBT、CBTにより学生が自主学習として活用できるように整備し、国家試験における高合格率の維持に努める。</p> <p>・現在、保健学科で実施している多数の入試方法の改善を目指し、各入試方法毎の動向を調査、検討する。グローバル化の一環として国際バカロレア入試を推進する。</p>	<p>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>・減少する教員数の中で教育レベルの確保のために領域、科目を超えてお互いに実習を行った。教員自体も幅広い分野での学習、体験をすることで教育の充実化が図れた。さらに、岡山大学病院での各専攻の病院実習においては、実習を担当する看護師、診療放射線技師、臨床検査技師に対して臨床教授、臨床准教授、臨床講師の称号を付与し教育を行った。岡山大学病院のスタッフとの教育・研究における密接な関係が今まで以上に充実化された。また、今年度は保健学研究科の大学院への入学生として岡山大学病院の技術職員を受け入れることができた。</p> <p>・60分授業・4学期制導入による教育の充実化に向けてカリキュラムの大幅な改定を行った。タグ機能付き映像アノテーションシステムを用いた教材の開発を行い、講義・演習・実験の映像教材のタグ情報付きアーカイブや映像を利用したグループディスカッションの構築、映像配信による講義・演習・実験のシームレスな学習環境の設定、タグ情報によるシミュレーション演習・実験の客観的評価として双方向(教員・学生)的評価の導入を行った。</p> <p>・留学や学外での研修を可能とする学期(時間割)を設定し、海外留学やインターンシップ、ボランティアプログラムにより学生の研修を行った。授業科目(Global Practice of the Health Science, Self Development Practice)の設定をし、28年度の達成結果については29年度の上記授業科目で評価、認証することとした。その一つとして、学生2名をDallas Baptist University(2か月)へ派遣した。Dallas Baptist UniversityとのMOAIについては相互承認がとれ、平成29年度にDBUと保健学研究科のMOA締結完了予定である。</p> <p>・実習前や実習後におけるOSCE(Objective Structured Clinical Examination)の導入により学習の充実に図った。WBT、CBTを充実させ臨床実習前にも行い、基礎専門知識の到達度を評価した。さらに国家試験に対応するために4年生においても自主学習も含めてWBT、CBTによる知識の確認を行った。</p> <p>・保健学科の入試は前期日程入学試験、後期日程入学試験に加えて、推薦・社会人入学試験、第3年次編入学試験、専門高校・総合学科卒業生入学試験、私費外国人入学試験、帰国子女入学試験があり、また当初より国際バカロレア入試も行い幅広く学生を受け入れている。しかし、受験生や合格者が減少している入学試験もあり、その現状の把握を行い、入学試験の今後のあり方について入学試験委員会で検討した。国際バカロレア入試においては昨年度に引き続いて行い2名の合格者を選出した。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>入試(前期・後期・推薦)の志願倍率 国際バカロレア入試の志願者数 看護師、保健師、診療放射線技師、臨床検査技師の国家試験合格率 卒業者の就職率</p>	<p>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>入試志望倍率 前期:2.1・後期:8.7・推薦:4.7 国際バカロレア入試の志願者数 2人 国家試験合格率 看護師:100%、保健師:100%、診療放射線技師:100%、臨床検査技師:94.7% 卒業者の就職率 看護学専攻:100% 放射線技術科学専攻:100% 検査技術科学専攻:97.2%</p>
②研究領域	
②-1 目標	
<p>・保健学科の研究領域については、15保健学研究科にまとめて記した。</p>	<p>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>・保健学科の研究領域については、15保健学研究科にまとめて記した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	
<p>・シーマハサラカム看護大学(タイ)、ミドルセックス大学(英国)との交流を行い、相互交流を推進する。</p> <p>・高校生向けに「保健学研究科オープンフォーラム」を開催する。</p> <p>・高校生に対して「保健学科長と語る会」を随時開催する。</p> <p>・27年度から始めた岡山大学附属中学校の学生に対する体験学習を継続する。</p>	<p>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</p> <p>・タイのシーマハサラカム看護大学(タイ)との交流事業として、8月に本学より学部生5名と引率教員2名を派遣した。また、11月には外国人短期研修生4名および教員2名を受け入れた。ミドルセックス大学(英国)との交流事業として、4月から5月には教員1名を派遣し本学との国際共同研究(挑戦的萌芽)で調査を実施した。さらに1月にも教員1名を派遣し、ミドルセックス大学および周辺の医療関連施設で英国でのフィールドワーク実習の新規プログラムを開拓した。さらに「チーム医療演習」の科目で海外派遣班を作り台湾に25名を派遣、研修した。「global practice for healthsciences」の科目で1名をシンガポールに派遣し、海外ボランティアプログラムの研修をした。また、トルコの大学から特別聴講生3名、外国人短期研修生1名(トルコ Duzce大学)、外国人短期研修生4名(中国 吉林大学 ナバイオコース)を受け入れた。</p> <p>・大学院保健学研究科オープンフォーラム、2016では『保健学研究科のグローバル化』をテーマに「留学のスミ ～世界が広がる留学生生活～」と題した特別講演、在学生によるパネルディスカッション、看護学分野・放射線技術科学分野・検査技術科学分野の各分野の教員による「国際交流の取り組み」に関するシンポジウムを10月30日に企画・開催した。</p> <p>・「保健学科長と語る会」を以前は金曜日夕方に限定して行っていたが、高校生の都合に合わせて各回1~2名の高校生に対して随時開催し、高校生からの大学での教育、研究、生活などの質問に対応した。</p> <p>・高校生大学訪問は昨年度と同様に行い、7高校、164名が参加した。また、岡山大学附属中学校体験学習を11月16日に行い38名が参加し、看護学専攻・放射線技術科学専攻・検査技術科学専攻に分かれて模擬講義や実習を受けた。</p>
国際交流による数値目標の達成 高大接続	
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>国際交流による派遣者数、受入数 「保健学研究科オープンフォーラム」、「保健学科長と語る会」の参加者数</p>	<p>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</p> <p>国際交流による派遣者数:32名 受入数:12名 「保健学研究科オープンフォーラム」の参加者数:148名 「保健学科長と語る会」の参加者数:12名</p>

【総括記述欄】

・全体的にみて今年度の目標はおおむね達成できたと考える。教育領域では60分授業・4学期制への移行で指定規則の変更も重なり、大幅な変更となったが、留学やインターンシップ、ボランティア活動などを含めた講義枠の設定を行うことで、従来では困難であった留学などの教育内容の充実が図れた。また、新しい講義方法の導入も行き、学生の自主的学習や講義と実習とのシームレスな教育および学生のアクティブラーニングなどの教育方法の改善もできた。今後は可能となった教育システムの最適化を図り、さらなる講義方法の充実化を目指していく予定である。社会貢献では今まで卒業時に国家試験の受験があり、指定規則の関係で休学をせずに長期間の国外研修は困難な状況であったが、60分授業・4学期制への移行により講義内容の変更や新たな講義を設定することにより、留学する学生を大幅に増加することができた。今後も今年度以上に国際交流を推進していきたいと考えている。